

特集：キャリア支援

就職活動体験記

遠山 健（筑波大学 生命環境科学研究科博士前期課程2年）

これから就職活動体験記を書くにあたり、まず私自身が就職活動を通じて何よりも大切だと感じたことをお伝えしたいと思えます。それは、「他人に惑わされず、自分の軸をしっかり持ち続けること」です。よく周りの人は「今年は就職氷河期の再来で大変だ」と言って焦りを与えてきます。また、就職活動のマニュアル本には偉そうな(?) アドバイスがたくさん書いてあります。一番良くないのは、こうした意見にいちいち惑わされ、自分を見失ってしまうことです。結局就職活動をするのは自分自身であり、自分には自分に合った就職活動のやり方というのが必ずあるはずです。「就職活動には絶対的な正解はない」、「就職活動の答えは自分を信じ、自分自身で探し求めるもの」というのが、就職活動を終えた今、一番感じることです。

こんなアドバイスとは矛盾してしまっていますが、ここからは私が就職活動体験を通じて感じたこと・伝えたいことについて具体的に述べていこうと思います。しつこいようですが、これから述べることは必ずしも「就職活動の正解」ではないので、あくまで参考程度に、肩の力を抜いて見ていただければと思います。

<就職活動の流れ>

まず、私の就職活動の流れを振り返ってみることにします。

～8月

○就職活動とはほぼ無縁の研究生生活を送る。

・日々の生活の中で、「多くの人々に影響を与えられる仕事がしたい」→「人々の生活に最も身近なもの=『食』を通じて世界中の人々を笑顔にしたい」というでかい志を持つようになり、食品メーカーに就職したいという気持ちが強くなる。

9月

○自分がまだ何も就職活動をしていないことに気づき、ついに重い腰を上げる。

・自己分析：自分はどのような人間なのか、将来どんな仕事がしたいのか。

・企業研究：食品メーカーを中心に、まずはインターネットで情報収集。

スーパーで商品を物色し、どの商品をどのメーカーが製造しているのかをチェック。

10月

○就職活動サイト(リクナビ、マイナビ、日経就職ナビ等)が本格的にOPEN、各企業にプレエントリーできるようになる。

・食品メーカーを中心に、最終的に73社にプレエントリー。

○マイナビ主催の合同会社説明会に参加

・実際に社員の方から話を伺うことで、インターネットの情報だけでは得られない会社の「中身」を知ることができた。社員の方から直接生の声を聞くことの大切さを実感。

11月

○OB・OG訪問を始める。

・3社ほど訪問した。社内の雰囲気を肌で感じられるのでおすすめ。「働く」ということのイメージをつかむことができた。

○エントリーシート(ES)の受付が始まる。

・はじめのうちは自分の軸がはっきりしておらず、自分の書くことに自信が持てなかった。当然、ほとんど通過せず。

12月

○会社説明会、面接を受け始める。

・この頃の面接では、場の空気に飲まれてしまい、思うように自分をアピールできないことが多かった。

1月

○とある就職活動セミナーに参加。

・「就職活動で大切なのは、自分の軸をしっかり持ち続けること」ということを改めて実感。このセミナーが自分の就職活動の大きな転機となる。

2～3月

○ES提出のピーク。

・「自分の軸」を貫くように意識したところ、ES通過率は90%を超えるようになった。

○筆記試験、面接のピーク。

・平日はほぼ毎日東京へ。交通費で出費がかさむ。一日で5社訪問した日もあった。

・筆記試験の対策は早ければ早いほうがよい。事前に対策しておけば、それほど問題ではない。

・面接では、ESに書いた「自分の軸」をさらにアピール。面接官に「あなたは〇〇な人間なんだ」というイメージを植え付けられたらしめたもの。面接の通過率も大幅にアップした。

4月

○内々定が出始める。就職活動終了。

・1月の就職活動セミナーをきっかけに、自分自身の就職活動のスタイルが確立し、順調に進むようになった。その結果、乳業メーカー、製菓メーカー等、数社から内々定をいただくことができた。中でも、自分自身の軸と会社の軸がぴったりと一致し、「この会社なら将来やりたいことができる」と感じた山崎製パンを就職先に決め、就職活動を終える。

<就職活動の4大イベント>

ここからは、就職活動で避けては通れない、4つのイベント(自己分析、業界・企業研究、ES作成、面接)について、私自身の体験を振り返ってみることにします。

①自己分析

私自身が当初そうであったように、自己分析=これまでの自分の人生を振り返ることだと勘違いしがちです。しかし、実際には

これだけでは不十分であり、自己分析の本当の目的は「未来の自分を知る」ことにあります。ある会社の人事担当者は、「会社側は、学生の過去の実績ではなく、未来のイメージで採用する」とおっしゃっていました。

私が未来の自分を知るために大切にしていたのが、「自分の軸(=価値観)を知る」ということでした。自分の実績というのはあくまで過去の話ですが、自分の軸は過去・現在・未来と一生を通じて存在するものだからです。「自分がどんな考えに基づいて行動を起こしてきたのか」ということを徹底的に掘り下げた結果、私は「何事にもあきらめずにチャレンジする」という自分の軸に行き着きました。この「チャレンジ」という軸は今後も変わることはないし、将来は自分のアイデアをカタチにする仕事にどんどんチャレンジしていきたいと思えたことが、私の自己分析の成果だと感じています。

②業界・企業研究

自己分析が進めば、ある程度自分のやりたい仕事・自分に向いている仕事が見えてくると思います。それをかなえられる業界・企業を探し、将来の自分の活躍の場を見つけるのが業界・企業研究です。

私の場合、もともと「食」というものに興味があったことに加え、チャレンジすることにやりがいを感じることから、食品メーカーの研究開発職に興味を持ちました。そして、各食品メーカーの研究開発の仕事について、自分の軸と照らし合わせ、「この会社で自分が活躍する姿をイメージすることができるか」という観点で企業研究を進めました。

企業研究で大切なのは、インターネット上の情報だけでその会社を知ったつもりにならないことです。就職活動を経て入社する会社というのは、自分の人生の大半を捧げる場所になるため、第二の結婚相手だといっても過言ではありません。結婚相手を選ぶ際、本人に直接会わず、間接的な外見のデータだけで決めようとする人はほとんどいないと思います。企業研究でも同様に、会社訪問などを通じて社員の方から直接お話しを伺ったり、社内の雰囲気や自分の五感で直接感じ取ったりすることによって、「本当に自分に合った会社はどこなのか」ということを徹底的に突き詰めるべきだと感じています。

③ES作成

私が就職活動の中で最もしんどいと感じたのがESでした。最初は多くの人が書くのに苦労すると思います。しかしESにも書くためのコツというものには存在し(個人ごとに違うが)、そのコツをつかみ、自分をアピールできるESが書けるようになれば、大きな武器となること間違いなしです。

参考までに、私がESを書く上で意識していたコツを紹介したいと思います。

・読み手の側に立ち、簡潔に書く。

→ESの基本。「ESは自分を紹介するパンフレットである」と言われるように、パッと見ただけで自分のイメージを伝えられるのが理想。項目ごとにタイトルをつけ、一番伝えたい結論から書き始めるのがポイント。

・「志望動機」「学生時代に努力したこと」「会社に入って実現したいこと」など、全ての項目において、自分の軸を貫き通す。

→私の場合、全ての項目で自分のチャレンジ精神をアピールすることを心がけた。そうすることで、ESを読む人に「遠山=チャレンジ」というイメージを植え付けられたと思う。相手が知りたいのは、過去の実績ではなく、未来のイメージであるということを常に意識することが大切である。

・いかに「この人のことをもっと知りたい」と思わせるか。

→ESで自分のすべてを伝える必要はない(それは不可能である)。だとすれば、短い文章でどれだけ相手の気を引けるか。そのためには、自分のキャッチコピー(宣伝文句)を作ると効果的。「面接でこの人のことをもっと知りたい」と思ってもらえれば大成功である。

④面接

面接は、今までの就職活動の総まとめ。自己分析で自分の軸を見つけ、業界・企業研究で会社を調べ、ESで自分のアピールポイントをまとめておけば、面接で話す内容にはほとんど困らないと思います。ESが通過した時点で、会社側は自分に興味を持ってきているわけだから、あとは自信を持って直接自分をアピールするだけです。

とはいえ、いざ面接会場に行き、面接官と向き合うと、どうしても緊張して頭が真っ白になります。こんな状況では、「ESの内容を丸暗記してそれを発表しよう」なんて考えていると絶対に失敗します。私は、自分をアピールするキーワードだけを意識しておいて、文章はその場で作るようにしていました。要は、面接官と会話をする感覚です。そのくらい気楽にやったほうが、結局はありのままの自分を伝えることができるし、好印象を与えられるのだと思います。

あと、意外と重要なのが、笑顔で面接室に入ること。ある面接官によると、面接室に入るとき、笑顔で入ってくる学生は全体の2割程度しかいないとのこと。その他は、みんな緊張のあまり暗い顔をして入ってくるのだそうです。だから、笑顔で面接室に入るだけでいきなり好印象を与えることができます。それに、最初から笑顔でいれば、面接官も笑顔で応じてくれるので、案外緊張せずに面接を乗り切ることができます。

グループ面接では、他人に惑わされず、とにかく自分に自信をもつことを心がけました。周りが「東大出身です」とか、「全国大会で優勝しました」とか答えていると、「自分ももっとすごいことを言わなければ」と焦ってしまいがちです。しかし、ここで焦って自分を見失うのが一番良くないことです。自分には自分の良いところがあり、それをしっかりアピールすることさえできれば、グループの他のメンバーが誰であろうと面接を突破することができますのです。

<最後に>

「就職活動の目的は内定を取ることでない」、就職活動中によく聞く言葉です。就職先で、「本当にこの会社を選んでよかった」と思えたとき、ようやく就職活動の目的が達成されるのです。そのために大切なこと、それは「会社が自分を選考するだけでなく、自分も会社を選考する」という主体性だと思います。私自身、就職活動中は積極的に企業を訪問したり、会社説明会で質問したりして、こちらから良い会社を見つけようという「強気の就職活動」を心がけました。その結果、自分の軸に合致する会社に巡り

会うことができたし、悔いなく就職活動を終えることができました。来年から山崎製パンで多くのチャレンジが待ち受けていると思うと、今からわくわくしてしまいます。

就職活動中は、なかなか自分の思い通りにならないことも多く、思い悩んだり、ストレスが溜まったりすることがよくあると思います。そんなときは、思い切って就職活動から一歩離れ、息抜きの時間を取ってみましょう。研究でも仕事でも就職活動でも、ON と OFF の切り替えは大切です。友人や先輩と酒を飲みながら愚痴をこぼしあうのもよいし、旅行に出かけてリフレッシュするのもよいでしょう。結果としてそれが就職活動の効率を高め、有意義なものにしてくれるはずです。

最後になってしまいましたが、就職活動中に私を応援してくれた家族、友人、先輩、後輩、先生方に心から感謝したいと思います。私は就職活動中、数多くの人々に支えられ、それを原動力にしてきました。あなた方がいなければ、今こうして就職活動体験記を書いている自分はいなかったと思います。本当にありがとうございます。

Communicated by Hidekazu Kuwayama, Received May 31, 2010.